

Day

3

タイトル

3. TICAD VIIへ向けた行動計画と中間報告  
(4) UNEPとUN-Habitat によるTICAD VIIIに向けたACCP行動計画案

発表者

国連ハビタット 都市基盤サービス部廃棄物管理ユニット ユニット長 Graham Alabaster  
国連環境計画 科学部SDGsデータ情報ユニット ユニット長 Ludgarde Coppens

要約

このセッションでは、2019年のTICAD VIIまでの廃棄物モニタリングと能力開発にかかる共同プログラム、開発アプローチ、パイロットテスト方法論、ACCPにおける国連の役割、実施の見通し等について議論された。廃棄物モニタリングと能力開発にかかる共同プログラムの上位目標は、廃棄物管理セクターにおけるSDG目標の達成を加速することである。方法論の開発とパイロットアプローチとは、指標方法論の開発、主な問題を議論するための国際的かつ多部門の専門家グループの招集などを含む。ACCPにおける国連の役割は、SDGのモニタリング、能力開発、政策立案および法制化の指針に関連する。

質疑応答では、「特定の基準に基づいて、国・都市のプロジェクトファイナンスの開発にかかる支援をしていると言及しているが、具体的にどのような基準なのか教えてほしい」という質問があった。それに対し、UN-Habitatは、「各国が二国間および多国間援助国へ提出する技術的プロポーザルを準備するのを支援している。このプロセスの重要な部分は、適切なモニタリングフレームワークを設定し、設計目的のためにデータを収集することである。UN-Habitatは、この作業のすべての側面について助言し、必要に応じてその国の交渉プロセスを支援することができる」と述べた。